

JICA 教師海外研修 学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

氏名	長田 里恵	学校名	私立文化学園長野中学 ・高等学校
担当教科等	英語（中学・高校）	対象学年（人数）	中学3年・2年 計32名
実践年月日もしくは期間（時数）	令和元年8月～令和2年2月（6時間）		

【実践概要】

1. 実践する教科・領域 :	特別活動・生徒会					
2. 単元名 :	『国際キャンペーン』 地球規模(パラグアイ)で考え、足元(文中の生徒会)から行動する					
3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標	<p>授業テーマ：NAGANO SDGs PROJECT 「みんなのSDGs宣言」に参加して長野をそして世界を変えていこう。</p> <p>単元目標：グローバル化で経済が複雑に絡み合い、イノベーションが絶えず生まれている予測不可能なVUCA（不確実で曖昧、動的で複雑）な時代を、協働して生き抜く力をつけるため、文化学園長野中学生徒会として「持続可能な世界を築くにはどのようなことを行えばよいのか」について、日本とその反対に位置するパラグアイの「課題」を考える。そして異年齢で組織される委員会の仲間と協働して、長野からできることを考え行動、活動を起こし、その結果をNAGANO SDGs PROJECTを利用して全県に発信する。</p>					
関連する学習指導要領上の目標：中学校学習指導要領「特別活動」						
<p>集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を發揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。</p> <p>(1) 多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動をする上で必要となることを理解し、行動の仕方を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 集団や自己の生活、人間関係の課題を見いだし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができるようとする。</p> <p>(3) 自主的・実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。</p>						
4. 単元の評価規準	①知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・写真や資料を見て、SDGsと結び付けながらパラグアイの現状を理解する。 ・パラグアイのインタビュー結果や新聞記事を読み取り、日本の現状と比較する中で、SDGs達成への課題を立てることができる。 				
	②思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・先進国日本は豊かで幸せだが、中進国になったばかりのパラグアイには課題が多いと考えていた生徒が、「社会課題解決中MAP」の資料を読み取る中で、内省・熟慮し、批判的思考を持つことができる。 ・知識構成型ジグソー法を用いることで、自分の言葉で考えを伝え、仲間と協働してそれぞれの知識を組み合わせ、発表することができる。 				
	③学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・学び得たことから、課題を自分に引き寄せて、自分たちの委員会でできることを考え実行することができる。 				

<p>5. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)</p>	<p>【単元設定の理由】 本校は、本年度ユネスコスクール 3 年目を迎えた。生徒は素直で受動的に知ろうとするものの、「自分で問い合わせる」ことが苦手である。そして、差別やいじめが犯罪になったり、犯罪が差別やいじめを生み出したりと、安定した社会が「持続不可能」になる因果関係を掴みにくいと感じている。また、他人が立てた問い合わせに答えるという「他人事」に従っているだけでは「主体的」な学びになりにくいと考える。「自分事」として関わり、つながりを深めるために、そして「自分で問い合わせる」ためには、その分野に対する興味、そして十分な情報・知識が必要であると考えた。生徒の実態を掴んだ上で、地球規模（パラグアイ）で考え、足元（文中の生徒会）から協働することで、例え失敗しても勇気を持って行動するために、本単元を設定した。</p> <p>【単元の意義】 予測不可能な VUCA（不確実で曖昧、動的で複雑）な時代を、協働して生き抜く力を持つために、アクティブ・ラーニング「知識構成型ジグソー法」を用いることで、一つの答えを多角的に捉え、一人で導き出す方法や、仲間と協働して導き出す方法のどちらも学べるので、勉強以外の場面でも困難な状況を乗り越えられる力が身につくこと。また、断片的な考え方を自分の言葉で発表することにより、考えがまとまり易くなること。</p> <p>【児童／生徒観】 中学生徒会も 4 年目を迎えた。1 年目は各委員会が考えるテーマにそって調べ、模造紙にまとめ掲示。2 年目はテーマを「SDGs」の各ゴールに着目し、執行部中心にリーダーズ研修後サブテーマを決めて探究、模造紙にまとめ全校で発表。3 年目の振り返りの中で、1、2 年生から「SDGs ってよく分からぬ」という声が上がり、3 年生からは「伝え方としては、ICT を使ってプレゼンをしたい。」という願いが上がった。単元に入る前のアンケートで、本校生徒の「パラグアイ」認知度は 38%、知っているとはい、「名前だけ知っている」「夏に長田先生が行った場所」程度の認識である、という実態がわかった。</p> <p>【指導観】 <ul style="list-style-type: none"> ・本単元において、生徒の「SDGs をもっとわかりやすく」という願いから、JICA 国際協力推進員の講演を皮切りに、都度 SDGs と関連させる活動をさせる。 ・日本、その反対に位置するパラグアイの相違点と類似点に着眼し、自ら課題を立てる。 ・知識構成型ジグソー法を用いて探究したり、委員会での全校討論をしたりして、自分のこととして活動を計画する。全校討論は執行部自ら計画実行させるが、事前にファシリテーション研修をする。 </p>
---	---

6. 単元計画（全 6 時間）

時	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	SDGs を知る	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の知識を確認させ、本単元の意義を知ることができる。 ・SDGs の講演を聞き、ゲームを通して、各目標の価値について話し合うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「国際キャンペーン」、SDGs の既習の知識を確認する。 ・English Camp 内で、中 1 ・ 中 2 を対象に、SDGs17 のゴールのカードを最も重要な目標から並びかえ、グループでその理由を考え、発表する。 [中 1 ・ 中 2] 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs17 のゴールのカード ・未来を変える目標 SDGs ・JICA 長野デスク 講師：竹内岳さん

2	パラグアイの基礎知識習得	<ul style="list-style-type: none"> ・パラグアイの基礎知識を身に付けることができる。 ・DVDを視聴しカテウラ音楽団を知り、パラグアイの地方と都市の差を挙げ MERCHANTABILITY ことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パラグアイについてのアンケートに答える。 ・パワーポイントのクイズに答えながら。パラグアイについて知る。(人口、面積、自然環境、食環境、文化など) ・カテウラ音楽団の演奏を聞き、その後カテウラの現状を知る。 ・地方と都市の差を写真から見取り、委員会のメンバーで感想を伝え合う。 [全校] 	<ul style="list-style-type: none"> ・パワポ (海外研修素材) ・NHK特集「移住」 ・JICA「どうなってるの?世界と日本」 ・海外研修素材 ・カテウラ音楽団DVD
3	パラグアイの課題を考える	<ul style="list-style-type: none"> ・知識構成型ジグソー法でパラグアイの3つのインタビュー結果を読み、パラグアイが抱える課題を考えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各自で資料を読み、SDGsと結び付けてみる。(ラパス日本語学校の後藤校長、パラグアイ共和国農村地のミグドニオ サムリオさん、カテウラ音楽団アシスタントのマルセロ・カセスさん) ・エキスパート班でワークシートにSDGs目標カードを貼って、自分の考えや班員の考えを共有する。 ・班で一番大事な課題だと思う事がらを決め、SDGsの番号とともに記入し発表する。 [中2・中3] 	<ul style="list-style-type: none"> ・パワポ ・エキスパート資料(パラグアイでのインタビュー結果) ・SDGs目標の付箋
〔生徒会企画〕	2019国際キャンペーン座談会&講演会	<ul style="list-style-type: none"> ・執行部員が中心になり、計画・運営を行うことができる。 ・生きる上で何を大切にしているのかを考えることができる。 ・自分の意見と他の人の意見を調整しながら物事を決めていく過程を体験する。 ・価値観を共有した仲間と協働し、委員会での行動・活動に結び付けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの既習の知識を持ち寄り、座談会のテーマを決め、講師を決める。 ・テーマ『誰一人取り残さない文生徒会』 ・講師: Joshua Pachecoさん(アメリカ出身) 本常 遥己さん(現在信州大学教育学部) 内容: "Happy and Unhappy" ①アイスブレイク: 全校で打ち解けよう ②4つの角: 私とあなた、どんな価値観をもつているかな ③権利の舟: わたしにとって一番大切な権利は? ④ダイアモンドランキング: 委員のメンバーで選ぶ、一番大切な権利は? (1回の土曜講座 3時間で) [全校] 	<ul style="list-style-type: none"> ・パワポ ・ワークシート
4 〔本時〕	“Think Globally, Act Locally”	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs達成のために生徒会として何ができるか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識構成型ジグソー法で、パラグアイについて2つの新聞記事と、日本について「社会課題解決中MAP」抽出資料を読み、エキスパートになる。 [中2・中3] 	<ul style="list-style-type: none"> ・幸せプロジェクトの動画 ・パワポ

5	プレゼンの学習	・ICTを使ったプレゼンを活用して伝えられるよう、リーダーとして活動できる。	・プレゼンの意義を知る。 ・効果的なプレゼンの6要素（簡単に→意外性→具体性→信頼性→感情的に→ストーリー性）を知る。 [中3]	・名プレゼンター（プレゼンテーション教材）
6	総合探求発表会	・保護者、地域の方々を学校にお招きし、各委員会でアクションプランの研究発表会でプレゼンテーションを行うことができる。	・各委員会「SDGs研究発表」を保護者、地域の方々の前でプレゼンテーションを行う。 ・生徒会執行部役員は、高校生徒会執行部とともに「信州ESDコンソーシアム」成果発表会へと繋げる。 [全校]	・各委員会作成パワポ

7. 本時の展開（4時間目）

本時のねらい：日本と南米パラグアイに共通する課題を解決するため、日本に暮らす文中共生徒会として（自分事として）何ができるかを考える。

過程時間	教員の働きかけ・発問および学習活動・指導形態	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (5分)	【知識構成型ジグソー法】 「日本と南米パラグアイに共通する課題を解決するために、日本に暮らす文中共生徒会として何ができるか」に対する自分の答えを、ワークシートに書く。	・生徒各自に取り組ませる。	・パワポ ・ワークシート ・ベル
展開 (15分)	①【エキスパート活動】 エキスパートA、B、Cの課題に取り組む。 エキスパートA ：<途上国から中進国へ> ○日本の反対側に位置するパラグアイが、途上国から中進国になったのはどうして？○パラグアイの国民性 エキスパートB ：<廃材楽器で美しい音色> ○日本の反対側に位置するパラグアイ首都アスンシオンにある音楽学校はどんな学校？ エキスパートC ：<社会課題解決中MAP> ○日本社会における課題は？ ○日本は本当に「豊か」で「幸せ」か？ ②【ジグソー活動】 活動1：エキスパート活動でわかったことを伝え合う。 活動2：最初の質問「南米パラグアイの課題を解決するために日本に暮らす文中共生徒会として何ができるか」について班員で考え、1つ活動を決めてワークシートに記入する。	・各ワークシートの答えを協働して考えさせ、括弧に答えを書かせる。 ・わかったこと、疑問に思ったことを次のグループで伝えられるよう準備しておくように伝える。 ・活動が停滞した場合、声をかけて支援を行い、活発な議論を促す。 ・前時の資料[大切な権利]表も参考にするよう促す。 ・発表は前に出て発表させ、聞き手には傾聴姿勢を心がけさせる。	・エキスパートA 新聞記事 ・エキスパートB 新聞記事 ・エキスパートC 社会課題解決中MAP ・ワークシート
(20分) (5分)	③【クロストーク】 数人の委員長が各委員で決定した活動を発表する。 最後にメインの課題について各自で考える。	・授業前に比べて自分がどれだけ理解が深まったかを感じるように促す。	・ワークシート ・各委員が選んだ大切な権利シート ・ワークシート
まとめ (5分)			

8. 評価規準に基づく本時の評価方法

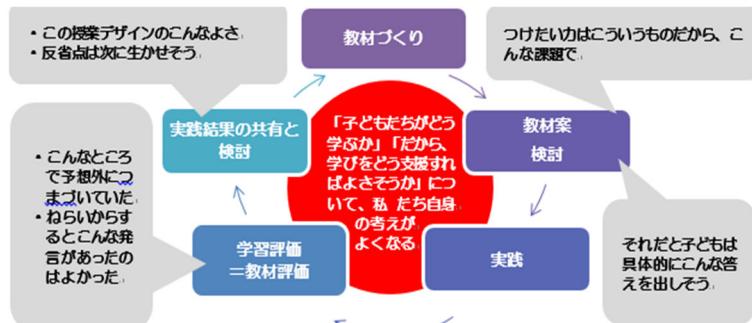
- ・パラグアイのインタビュー結果や新聞記事を読み取り、日本の現状と比較する中で、SDGs達成への課題を立てることができる。【知識及び技能】
- ・先進国日本は豊かで幸せだが、中進国になったばかりのパラグアイには課題が多いと考えていた生徒が、「社会課題解決中 MAP」の資料を読み取る中で、内省・熟慮し、批判的思考を持つことができる。【思考力、判断力、表現力等】
- ・学び得たことから、課題を自分に引き寄せて、自分たちの委員会でできることを考え実行することができる。【学びに向かう力、人間性等】

9. 学習方法及び外部との連携

【学習方法】知識構成型ジグソー法（表1：評価方法）

表1

写真1



【外部との連携】(写真1: JICA推進員 竹内氏講演)

[JICA推進員 竹内岳氏] イングリッシュキャンプ内で中学1・2年生対象に、ご自身の体験を基に開発教育、SDGsについて講話をいただいた。

[信州大学教育学部 本常遥己さん] 長野青年会議所例会「Nagano カンファレンス」若者と政治家を結ぶ公開討論会の県代表3名の中に本校の生徒が選ばれたのがご縁。思春期を迎えてアイデンティティに悩む生徒に近い世代から「価値観」について講話をいただいた。(生徒会で選出)

[Joshua Pachecoさん (アメリカ出身:母が日本人、父がアメリカ人。)] 本校の生徒の従弟である。最近来日され、様々な困難を乗り越えて現在に至る過程について、講話をいただいた。(保護者の推薦。生徒会で選出)

【生徒の変容】ワークシートより :

- ・「違いは違いで間違いではない」心が震えた。・忖度しすぎて話ができない僕。「言葉の壁は壁じゃない」が心に突き刺さった。・「自分」について、まず自分が一番の理解者でありたいと思う。・人を受け入れ認め合うことが大切であり、差別・偏見は、世界が見直すべき課題であると思った。「誰一人取り残さない社会」を目指すために、認め合い、違いを受け入れることが大事だと改めて感じた。等

10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組 <ユネスコスクール加盟3年目の取組>

- ・「総合的な学習の時間」「生徒会活動」「部活動」を主軸に。(1)異文化理解プロジェクト (2)環境教育・ボランティア教育プロジェクト (3)地球規模の諸問題解決方策プロジェクトを柱に。
- ・その際に「21世紀型能力」を育むため、アクティブラーニングを通して、知識・技能の習得、自ら課題を発見しその解決に向けて探求し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力の育成、そして主体性を持ち多様な人々と協働しつつ学習する姿勢を身に付けさせている。
- ・平成28年度から、東京大学CoREFと連携し、アクティブラーニングの手法の1つである「ジグソー法」の研究実践を進めており、本年度も引き続き研究を重ねている。
- ・中学3年時カナダホームステイ研修、高校2年時イギリス修学旅行にてSDGsフィールドワークを行う。

【自己評価】

11. 苦労した点	生徒が自ら問い合わせを立てることは、ただ関心事に自由に取り組まなければいい、ということではない。興味を問い合わせへと転換するまでの専門知識の学び等を組み込んだプロセスを、入念に設計することが大切であると感じる。今回の授業では、スローラーナーにも取組易いように、ワークシートの問い合わせに答えていけば自ずとエキスパートになるようにしたことが苦労した点である。そして更なる探究に導くよう、地域と連携するプロセスも大変苦労したが、生徒会活動が、地域に必要とされている実感がもたらす生徒の自己肯定感は予想以上であった。生徒が主体性を身に付け、探究活動において「問い合わせ」を立てることが出来るようになるには、それを意図した仕掛けが要であり、またそのプロセスが大変重要であると分かった。
12. 改善点	・生徒の実態に合わせて、全員がエキスパートになれる方法を検討する。 ・本授業に於いては、事前にメイン課題を生徒会顧問団で解いてみて、検証。授業の時には本校教員全員で見取り、検証。大変意義ある研究になった。一方で、師走の時期の研究会は避けたほうが良いとのご指摘を頂いた。要検討。
13. 成果が出た点	集団浅慮を危惧していたが、学年が違うが故の良い効果が出たと思う。3年生は先輩としての意地、2年生は次期生徒会を継ぐものとしての気迫、1年生は先輩に頼りながらも、大らかに受け入れられていることでの自己有用感を感じており、集団の相乗効果が良い方向に出ていた。生徒会執行部が「みんなの SDGs 宣言」を取り入れ、異学年で形成されている委員会毎、地域の持続不可能を探し出した上で行動化を図り、PDCA サイクルで持続可能な活動とし、全県に広報した。2月には学校に地域の方々や保護者をお呼びし、ユネスコ連絡協議会会长より総括頂き、其々高評価を得た。「異なる立場や考え方の良さを見つけるようになった。」「自分は地域や社会から必要とされていると感じられるようになった。」「失敗しても、仲間と共にもう一度挑戦できることが嬉しい。最後までやり遂げたいと思う気持ちが強くなった。」という気付きがあった。
14. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	・どっちの国が良くて、または悪いというわけではないので、両国の大事な部分を混ぜ合わせるのはどうか。(中1)・地球の反対側同志なのに抱えている問題が同じことに驚いた。世界全体で考えないと!と思った。(中3)・日本を大切にしてくださる人々がいるということを知ると、その人々と対等な関係を築きたいと心から思う。でもどうやって? (中2)・パラグアイに行ってみたいと思った。現地へ行って見えるものがあると思った。(中2)・パラグアイの人は親日的なのに、私たちは正直あまり知らない国で、私たちも何かしなくちゃと思う。この長野できること、パラグアイの人とスカイプとかで交流できないか。(中3)
15. 授業者による自由記述	「あなたはどんな時に幸せを感じますか?」「家族と一緒にいるときはその家族が、友達と一緒にいるときはその友達がそれぞれ幸せであって初めて、自分も幸せになる。」パラグアイで広く信仰されている宗教も影響しているのか、「幸福」を感じるときの対象範囲の、日本のそれとの違いを実感することができた。以前、本校の中學1年生から高校3年生に同じ調査したことがある。結果は、成長と共に多様な幸せを感じられる素養を持ちながらも、不安を前になると安定志向となり、「あきらめ」てしまっている、というものであった。幸福の心的因子「ありがとう!」(つながりと感謝)「やってみよう!」(自己実現と成長)「わたしらしく!」(独立とマイペース)「なんとかなる!」(前向きと楽観)という思いを、自分に与えてくれた JICA 教師海外派遣研修の意義深さを改めて感じる。自分の強みは、「つなぐ」こと。本企画に関わっている全ての方々に感謝し、自分の強みを生かして私らしく、失敗を恐れず、パラグアイと日本をつなぐことに尽力するつもりである。この心に灯った火が、あまり激しくあつという間に消えてしまわないよう、皆様の心の火を継ぎ足しながら、持続可能な限り燃え続けたいと思っている。

参考資料：

- ・私たちが目指す世界子どものための「持続可能な開発目標」～2030年までの17のグローバル目標～（DEAR）
- ・先生・ファシリテーターのための『持続可能な開発目標・SDGs・アクティビティ集』（DEAR）
- ・未来の授業 私たちのSDGs 探究 BOOK (NPO 法人 ETIC.)
- ・未来を変える目標 SDGs アイデアブック (Think the Earth)
- ・社会課題解決中マップ (<https://2020.etic.or.jp/>)
- ・JICA 独立行政法人国際協力機構 (<https://www.jica.go.jp/>)
- ・東京大学 CoREF 知識構成型ジグソーカード (<https://coref.u-tokyo.ac.jp/>)
- ・千葉日報（令和元年8月27日（火）（令和元年8月31日（土）

[ジグソーメソッド授業案]

実施日	令和元年 12月5日 (木)	教科・科目	特別活動・生徒会
学 年	中学3・2年	生徒数	中学3年(23名) 2年(9名) 計32名
単元名	NAGANO SDGs PROJECT「みんなのSDGs宣言」 に参加して長野をそして世界を変えていこう	本時／ 全時間	4/6
教科書	—	授業者	長田 里恵
1 授業のねらい（本時の授業を通じて生徒に何を身に付けてほしいか、この後どんな学習につなげるために行うか。）	<p>グローバル化で経済が複雑に絡み合い、イノベーションが絶えず生まれている予測不可能なVUCA（不確実で曖昧、動的で複雑）な時代を、協働して生き抜く力を持つため、文化学園長野中学生徒会として「持続可能な世界を築くにはどのようなことを行えばよいのか」について、日本とその反対に位置するパラグアイの「課題」を考えさせる。そして委員会の仲間と協働して、長野からできることを考え行動、活動を起こし、その結果をNAGANO SDGs PROJECTを利用して全県に発信する。</p>		
2 メインの課題（授業の柱となる、ジグソー活動で取り組む課題）	<p>地球規模（パラグアイ）で考え、足元（文中の生徒会）から行動するには？</p>		
3 生徒の既存知識・学習の予想（対象とする生徒が、授業前の段階で上記の課題に対してどの程度の答えを出すことができるか。また、どの点で困難がありそうか。）	<p>○前時にパラグアイの課題を「自分たち日本人のように幸せに暮らせていない」と挙げていた生徒が、足元である日本の現状と照らし合わせることで、パラグアイの課題が日本にもあると気付くことができる。 △具体的に自分たちができるを探すことは、困難だと考える。</p>		
4 期待する解答の要素（本時の最後に生徒が上記の課題に答える時に、話せるようになってほしいストーリー、答えに含まれてほしい要素。本時の学習内容の理解を評価するための基準。）	<p>別紙（授業研究のための見とりの観点シート）</p>		
5 各エキスパート<対象の生徒が授業の最後に期待する要素を満たした解答を出すために、各エキスパートで押さえたいポイント、そのために扱う内容、活動>	<p>A：地球の反対側に位置するパラグアイが、途上国から中進国になったのはどうして？また、パラグアイの国民性は？ B：地球の反対側に位置するパラグアイ首都アスンシオンにある音楽学校はどんな学校？ 講師マリウス・カテルスさんは「私たちは何もない状況から学校を造り上げた。できないことなんてない」に込められたメッセージとは？ C：日本社会における課題は？ 日本は、本当に「豊か」で「幸せ」か？</p>		

本時の学習と前後のつながり

	取り扱う内容・学習活動	到達してほしい目安
前時	資料を読み、SDGs と結び付けながらパラグアイの課題を考える。	パラグアイのインタビュー結果を読み、SDGs の課題を立てることができる。
本時	日本と南米パラグアイに共通する課題を解決するため、日本に暮らす文生生徒会として（自分事として）何ができるか考えることができる。	パラグアイの課題を、日本の課題と照らし合わせながら、自分事のように考え方課題を立てることができる。
この後	<p>プレゼンの学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンの意義（伝える→共感させる→感動させる→決断させる→行動させる）を知る。 ・効果的なプレゼンの 6 要素（簡単に→意外性→具体性→信頼性→感情的に→ストーリー性）を知る。 	持続可能な開発目標達成に向けた行動を、ICT を使ったプレゼンを活用して伝えられるよう、リーダーとして活動できる。

6 上記の一連の学習で目指すゴール(ねがい)

あと 1 カ月もすれば生徒会選挙が行われ、新しいリーダーが誕生し、生徒会活動も 5 期生にそのバトンが渡される。

今後も「持続可能な生徒会」をつなぐには、常に地球規模で考えながら、文生生徒会に活動を引き寄せ行動できることを目指したい。一つ一つの問題について他人事ではなく、日本も含む世界全体で解決・改善に向けて取り組むべき共通の課題であるという認識を持ち、グローバル市民の一人として自分にできることを考え、生活を見直し、行動できるようになってほしいと願っている。

本時の活動のデザイン

時間	学習活動	支援等
5	【導入】 各自ワークシートの「南米パラグアイの課題を解決するために日本に暮らす文中共生徒会として何ができるか」自分の考えを書く。	・生徒各自に取り組ませる。
15	①【エキスパート活動】 エキスパートA、B、Cの課題に取り組む。 エキスパート A : <途上国から中進国へ> ○地球の反対側に位置するパラグアイが、途上国から中進国になったのはどうして? ○パラグアイの国民性は? エキスパート B : <廃材楽器で美しい音色> ○地球の反対側に位置するパラグアイ首都アスンシオンにある音楽学校はどんな学校? ○講師マリウス・カテルスさんは「私たちは何もない状況から学校を造り上げた。できることなんてない」に込められたメッセージとは? エキスパート C : <社会課題解決中 MAP> ○日本社会における課題は? ○日本は、本当に「豊か」で「幸せ」か?	・各ワークシートの答えを協働して考えさせ、括弧に答えを書かせる。 ・机間巡視。 ・わかったこと、疑問に思ったことを次のグループで伝えられるよう準備しておく必要があることを伝える。
20	②【ジグソー活動】 [活動1] エキスパート活動でわかったことを伝え合う。 [活動2] 最初の質問「南米パラグアイの課題を解決するために日本に暮らす文中共生徒会として何ができるか」について班員で考え、1つ活動を決めてワークシートに記入する。	・活動が停滞した場合、声をかけて支援を行い、活発な議論をうながす。 ・他の意見をメモするよう伝える。 ・前時の資料<大切な権利TOP3>表も参考にするよう促す。
5	③【クロストーク】 数人の委員長が各委員で決定した活動を発表する。	・発表は前に出て発表させ、聞き手には傾聴姿勢を心がけさせる。
5	【まとめ】 最後にメインの課題について各自で考える。	・授業前に比べて自分がどれだけ理解が深まったかを感じるように促す。

グループの人数や組み方

エキスパート班

A: 3人×1 4人×2 B: 3人×1 4人×2 3人×2 4人×1

ジグソー班 (各生徒会)

執行部4人 放送3人 校風3人 保健4人 美化・奉仕4人

評議3人 新聞・図書4人 運動3人 文実4人



高ストレス型日本社会

自殺大国、ニッポン。日本の若者の死因1位は「自殺」です。2016年には、320人の小中高校生が自殺で亡くなりました。自殺死亡率も先進国で突出しています。日本に住む人のほぼ半数が「日常生活での悩みやストレスがある」と感じています(厚生労働省の国民生活基礎調査より)。30代から50代が最もストレスを感じる人の割合が多い状況です。精神疾患で医療機関に通っている人は、300万人を超えています。生きづらさ、不自由さ、何かの欠如や過剰があるとしたら、どうしたらバランスのとれた心の状態を取り戻せるでしょうか。



幸せの模索と実現

社会構造や人々の暮らしが大きく変革している現在、経済的豊かさだけでは測れない「新しい幸せモデル」が必要とされています。グローバル化にともなう環境・エネルギー問題や格差の拡大に対し、世界的にローカリゼーションの動きが広がっています。世界的な人口減少・高齢化も進む中、有限な資源を持続可能な形で必要な人々へ届け、新しい価値を生み出し続けるにはどのような取り組みが必要でしょうか。



やり直しづらい日本社会

人生のある時点で”社会的失敗”をしたとき、やり直せる社会を、どうやってつくっていけばよいでしょうか。自己破産した人は2016年は6万4,637件。最も多いのは40代男性で、住宅ローン起因もあるといいます。路上に住む人のうち、10年以上家と呼べる場所のない状態の人は3割を超えています。再犯者の割合は上昇を続けており、2015年には一般刑法犯の検挙人員中の再犯者率約48%にもなります。人生のある時点で”社会的失敗”をしたとき、やり直せる社会をどうやつたらつくれるでしょうか。





老朽化が進む日本のインフラ

高度経済成長期以降につくられた橋、トンネル、下水道や港湾岸壁などのインフラ設備。建設から50年以上経過し老朽化が進むため、補修や改築が必要なものが、今後20年で一気に増加していきます。しかし社会保障の増大など、インフラに充てられる財源は多くは無い中、点検や補修のローコスト化や財源の転換などが求められるでしょう。一方で、自動運転やドローンなどの空路利用など、これまでの設備とはまったく別の新しいインフラ整備の可能性も見えてきています。



日本でも起きている！食料問題

日本の食料自給率は先進国中最低の水準で、世界最大の食料純輸入国である一方、食品産業や家庭内での食べ残し・賞味期限切れなどに伴う廃棄などは増加傾向にあります。国内では担い手不足の結果耕作放棄地が増加している一方で、世界で養うべき人口は一日に21万9,000人ずつ増加する中で食料は大幅に不足しています。そんな中、耕作に適した土地・水資源・食料の安全保障は国家的な課題になっています。

個人の栄養バランスをみてみると、孤食が広がり、また、低所得者層ほど、手軽な外食の安くて満腹感を得やすいコスパ重視の食生活を送ることで生活習慣病を生んでいる「健康格差」の問題も指摘されています。

持続可能な形で、誰もが適切な食にアクセスできる社会を、どうやってつくっていけばよいでしょうか。



先進国なのに高い相対的貧困率

平成28年国民生活基礎調査によると日本の子どもの貧困率は13.9%、約280万人。7人に一人が貧困状態にあります。2010年のOECD調査によると、所得平均の半分に満たない人の割合「相対的貧困率」は、世界34カ国中第6位です。就業しているひとり親世帯の半数以上が貧困状態にあり、先進国の中でも日本だけが、傑出して高い割合です。内閣府「子どもの貧困対策に関する大綱」平成26年版によると、生活保護世帯に属する子どもの大学等進学率は19%で、全世帯の52%を大きく下回っています。中卒・高卒の約半数が、正規雇用の3分の1の年収平均の非正規雇用にあります。

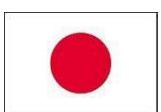
公正で豊かな社会をつくるには、どのような取組が必要でしょうか。

ワークシート A

SDGs達成のために生徒会として何ができるだろう



日本と南米パラグアイに共通する課題を解決するために
日本に暮らす文中の生徒会として何ができる？



_____委員会 年 組 名前_____

1. あなたの考えを書きましょう。

2. エキスパート活動 ▲ ◎協力して 10 分で行うこと。

Review :

- ① パラグアイの課題は、「() 17 の目標」につなぐことができた。
- ② SDGs は「() 可能な開発目標」で、理念は「() 一人取り残さない— No one will be left behind.」である。
- ③ 農村地域では、通学も一苦労。中学生でも、原付 () に乗って、凸凹の赤土の道を通学している。

Q1. 地球の反対側に位置するパラグアイが、途上国から中進国になったのはどうして？

- ① () の支援により、赤土が伸びる農村地域も () が整備され、不便さは解消されつつある。
- ② パラグアイの国民は () で、支援に感謝している。
- ③ 日本の援助額はアメリカに次ぎ世界 () 位。穀物の効率的な () 伝授から () などの () 整備まで多岐にわたる。
- ④ () の支援も 1976 年から積極的に行われ、最近は () や () などの支援に広がりつつある。

Q2. パラグアイの国民性は？

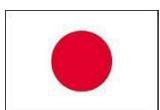
食料自給率世界一位 (350%超) で、食料が豊富にあるためか、国民は ()。

ワークシート B

SDGs達成のために生徒会として何ができるだろう



日本と南米パラグアイに共通する課題を解決するために
日本に暮らす文中の生徒会として何ができる？



_____委員会 年 組 名前_____

1. あなたの考えを書きましょう。

2. エキスパート活動 B ◎協力して 10 分で行うこと。

Review : パラグアイの首都アスンシオンには、ゴミ山のスラム街があり、() をしながら、危険と隣り合わせで生きている子ども達がいる。

Q1. 地球の反対側に位置するパラグアイ首都アスンシオンにある音楽学校はどんな学校？

- ① 学校の名前は () 楽団。
- ② () を使い作った楽器を演奏する楽団で、世界的に有名。
- ③ 講師の先生は、演奏指導だけでなく、生徒の生活環境に応じて () をしたり、() のサポートもしている。
- ④ 音楽の枠を超えて () の子どもを救おうとする楽団。
- ⑤ アルゼンチン人で () 技師で音楽好きの () さんが創設。
- ⑥ 弦楽器を支えているのは ()。楽器のボディーは () をリサイクルした特製品。楽器を買う () がなかったため。
- ⑦ ニコラス・ゴメスさんは、持続可能な開発にするため、最近子どもたちに指南し、() を育てている。

Q2. 講師マリウス・カテルスさんは「私たちは何もない状況から学校を造り上げた。

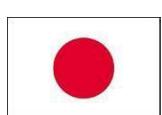
_____。」ときっぱり言っている。どんなメッセージがあると思う？

ワークシート C

SDGs達成のために生徒会として何ができるだろう



日本と南米パラグアイに共通する課題を解決するために
日本に暮らす文中の生徒会として何ができる？



_____委員会 年 組 名前_____

1. あなたの考えを書きましょう。

2. エキスパート活動 C ◎協力して 10 分で行うこと。

Q1. 日本社会における課題は？

- ① 建設から 50 年以上が経過したインフラ設備が（ ）化が進むが、日本の財源は多くない。解決策として、（ ）運転や（ ）の空路利用など、別のインフラ整備の可能性も見えている。
- ② 日本の食料自給率は先進国の中で（ ）の水準。世界最大の食料純（ ）である。
- ③ 手軽な外食の、安くて満腹になるコスパ重視の食生活を送る低所得者層は、生活習慣病を生み「（ ）」の問題がある。
- ④ H28 国民生活基礎調査によると、日本のこともの（ ）率は 13.9%。（ ）人に一人が（ ）状態。世界 34 か国の中第（ ）位。
- ⑤ 日本は、（ ）大国である。
- ⑥ 日本に住む人のほぼ半数が「日常生活での悩みや（ ）がある」と感じている。
- ⑦ 経済的豊かさだけでは測れない「新しい（ ）モデル」が必要である。
- ⑧ 日本は、人生のある時点で“社会的（ ）”をすると、やり直しづらい。

Q2. 日本は、本当に「豊か」で「幸せ」か？

3. ジグソー活動（各委員会）

- ① エキスパート活動（A,B,C）で学んだことを、各自 1 分で委員に教えましょう。プリントを見せるのではなく、自分の言葉で伝えましょう。また、聞き取ったことを簡単にメモしましょう。

		疑問
A		
B		
C		

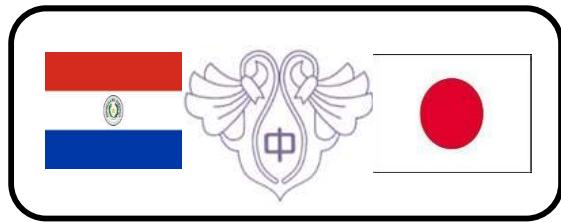
- ②最初の質問「日本と南米パラグアイに共通する課題を解決するために日本に暮らす文中共生徒会として何ができる？」について、前回行った＜大切な権利 TOP3＞の行動化・活動化表も見ながら、委員全員で考え、1つ活動を決めて、書きましょう。

日本と南米パラグアイに共通する課題を解決するために
日本に暮らす文中共生徒会として何ができる？

委員会

委員会

日本と南米パラグアイに共通する課題を解決するために、文中方生徒会として何ができるか考えて、できるだけたくさん付箋に書いてこのワークシートに貼ろう。



執行部	
坂野希吏	前山桧成
大日方美音	小林徳亮

保健	
藤浦響	瀬在俊貴
南部憲太	百瀬哩央

評議・選管	
佐久間彩華	小林茉莉花
笹川涼香	

放送	
宮本満平	西原望
婁龍太	

美化・奉仕	
河西沙奈	沖村菜摘
水本惺也	北沢彬朗

新聞・図書	
笹井玲那	江口琴葉
原咲織	小口霞

校風	
村田瑛里	宮本都和
山口あづさ	

文化祭実行・運動	
花田玲亜	松島向日葵
吉岡優希	南部そら

文化祭実行・運動	
小林摩耶	滝沢杏菜
高木和羽	

A1	
坂野希吏	山口あずさ
水本惺也	

A2	
瀬在俊貴	原咲織
小林徳亮	高木和羽

A3	
花田玲亞	笹川涼香
裏龍太	河西沙奈

B1	
佐久間彩華	沖村菜摘
南部そら	

B2	
笹井玲那	前山桧成
松島向日葵	南部憲太

B3	
小林摩耶	西原望
宮本都和	小口霞

C1	
藤浦響	小林茉莉花
北沢彬朗	

C2	
宮本満平	江口琴葉
滝沢杏菜	百瀬哩央

C3	
村田瑛里	大日方美音
吉岡優希	

R1年度 中学生徒会「国際キャンペーン」 国際理解教育校内授業研究 資料1

生徒の実態（中学）

2019/12/5

中高一貫の生徒会も四年目を迎え、国際理解探求の学習を、「委員会」という異学年の生徒が集う集団で探究する学習も4回目となる。

1年目は、各委員会が考えるテーマにそって調べ、模造紙にまとめ、掲示した。

2年目は、テーマを「SDGs」の各ゴールに着目し、執行部中心にリーダーズ研修後、サブテーマを決めて調べ、模造紙にまとめ、全校でプレゼンを行った。

3年目の振り返りの中で、1、2年生から「先輩たちから教えていただくSDGsがよくわからなかった。」という声が上がった。また、3年生からは「伝え方として、ICTを使ってプレゼンをしたい」という願いが上がった。

4年目の今年は、上記の実態と生徒の願いを踏まえ、

①1、2年生は「SDGs」の学習を、イングリッシュキャンプで位置づけ、カードゲームを通して概要を学ぶ。その上で、3年生と協働して活動を深める。

②3年生は夏休み前の合同委員会を皮切りに「SDGs」と「ICTを活用した効果的なプレゼン技法」の学習を行う。総合学習の授業時に行うこととした。

③12/5（木）午後～ユネスコスクールである文化学園長野中学・高等学校におけるESD・SDGsを軸にした国際理解教育指導の充実を図るため、その意義と実践的指導の在り方について 研究することを目的とし、国際理解教育校内授業研究を行う。

本時までの実態

1. [8/2(金)] ○イングリッシュキャンプにて、1・2年生が、JICA長野竹内岳講師より、開発途上国の実情や日本との関係、国際協力の必要性等を交え、信州と世界の繋がりをSDGsの視点を通しての講話を聴いた。
2. [9/6(金)] ○長野県に、本年度6月に設立された「Nagano SDGs Project」にSDGs行動宣言を提出。
3. [10/17(木)] ○パラグアイ報告会。



<エキスパート資料>

[生徒の実態] ワークシートより

①パラグアイを知っていたか

Yes · · · 3 8 % (長田先生が行った所) No · · · 6 2 % (名前だけ)

②報告会で感じたこと

- ・パラグアイについてもっと知りたくなった。(中 1)
 - ・どっちの国が良くて、または悪いというわけではないので、両国の大変な部分を混ぜ合わせるのはどうか。(中 1)
 - ・働くことについて考え方方が違うことに驚いた。(中 2)
 - ・地球の反対側同志なのに抱えている問題が同じことに驚いた。世界全体で考えないと！と思った。(中 3)
 - ・正直つながりが薄いので今後僕らがどうすべきか考える必要がある。(中 3)
 - ・日本を大切にしてくださる人々がいるということを知ると、その人々と対等な関係を築きたいと心から思う。どうやって？(中 2)
 - ・なんとなく、パラグアイと日本は似ている？(中 1)
 - ・パラグアイに行ってみたいと思った。現地へ行って見えるものがあると思った。(中 2)
 - ・パラグアイの人は親目的なのに、私たちは正直あまり知らない国で、私たちも何かしなくちゃと思う。
 - ・日本もパラグアイも大変だ！(中 1)
 - ・パラグアイの日系の方が作った「かりんとう」は、まんま日本！(中 1)
 - ・パラグアイを全く知らないまま 13 年間も過ぎてしまった・・・(中 1)
 - ・日系人の理想と違う「日本」がなんだか悲しい。(中 1)
- 「もっと詳しく知りたくなった。」

4. [11/21 (木)] ○リーダーズ研修。(SDGs 達成のために生徒会として何ができるか) 「南米パラグアイにはどんな課題がある？」 JICA 海外教師研修で行ったインタビュー結果と資料を読んでパラグアイの課題について SDGs と結び付ける。(中 2・3)

[生徒の実態] ワークシートより

- ・SDGs 1 地域格差がある。
- ・SDGs 4 質の高い教育。
- ・SDGs 4 家庭の事情で学校を卒業できない子供が 40%。
- ・SDGs 11 町のインフラ整備。
- ・SDGs 12 スラムのゴミ問題。
- ・SDGs 17 日系社会への援助不足。

○「日本の自分たちのように幸せに暮らせていないこと」



5. [11/30 (土曜講座)] ○『誰一人取り残さない文书中生徒会』講演会及び座談会

- ・他人の良さに気付く。自分の良さに気付く。
- ・生きる上で何を大切にしているのかを考える。
- ・自分の意見と他の人の意見を調整しながら物事を決めていく過程を体験する。
- ・価値観を共有した仲間と協働し、委員会での行動・活動に結び付けていく。



[生徒の実態] ワークシートより： 本時でわかったこと・疑問に思ったこと

<執行部>

- ・「違いは違いで間違いではない」・・・心に残った。・「言葉の壁は壁じゃない」が心に突き刺さりました。
- ・『権利の舟』の話し合いで、人それぞれ色々な考え方があると改めて感じた。
- ・『権利の舟』ではみんな、環境問題などを解決するために何ができるかを真剣に考えていて、こういう議論はとても大切だと思った。
- ・「自分」について、まず自分が一番の理解者でありたいと思う。
- ・お二人の講演を聞いて、人を受け入れ認め合うことが大切であり、差別・偏見は、世界が見直すべき課題であると思った。「誰一人取り残さない社会」を目指すために、認め合い、違いを受け入れることが大事だと改めて感じた。
- ・人とのかかわりの中で、関係性が崩れてしまうことは必ずあるが、お互いに認め合うことが大切である。

<評議委員会>

- ・私にも、まだできることがたくさんあることが分かった。
- ・人それぞれ感じ方、考え方方が違うので、それを認め合うことが大切。
- ・3年の先輩方の対応の仕方、まとめ方がとても上手で、大変お手本になりました。来年は、先輩方のようにできるようにしたいと思います。
- ・自分自身を知り、多くの人とコミュニケーションをとる。決して相手を否定するのではなく、理解し受け入れることが大切。
- ・外見や発言だけでその人のことを分かったと思わない。偏見を持たない。自分も以前偏見を持ったことがあるため、その子と、もっと話をしようと思う。
- ・SDGsについてもって学びたい。
- ・「権利の舟」「四つの角」で学んだ価値観を今後に生かしたい。

<放送委員会>

- ・私にとって、どれもとても必要な権利で、権利を捨てるという選択にとても悩んだ。各委員会で考えた「私たちが行動できること」も、どれも素晴らしいものだと思う。
- ・人間は、食料やきれいな空気などがないと生きていけない事を改めて知ることができた。「挑戦」をしないと何も始まらないということ。それが大切だと僕は思いました。
- ・自分にとって賛成・反対の両方の意見があったが、それを認め合い、互いに歩み寄り、妥協案を見つけることが大切なのはと感じた。
- ・自分がある権利を捨てたときに、実際に起こりうるであろうことを考えられて良かった。多様性を認められる文化学園だからこういうディスカッションができるのだと思った。様々な価値観や考え方を尊重することが大事だと思う。

[各委員会の実態]：私たちが選んだ大切な権利 TOP3 を行動化

<生徒達が選んだ権利上位項目>

- ・愛し愛される権利
- ・毎日十分な食べ物と水を得る権利
- ・きれいな空気を吸う権利
- ・いじめられたり、命令・服従されない権利
- ・違いを認められる権利
- ・正直な意見を言い、それを聞いてもらえる権利
- ・自由にできるお金を持つ権利

A きれいな空気を
吸う権利

B 自由にできるお
金をもつ権利

C 皆と違っている所
を認められる権利

D いじめられたり、命
令・服従されない権利

E 毎日、十分な食べ
物と水を得る権利

F 遊べる（休養）
時間をもつ権利

G スマホを持つ
権利

H 旅行して休暇を
楽しむ権利

I 正直な意見を言いそ
れを聞いてもらう権利

J 周囲の人から親切
にしてもらえる権利

K 自分の過ちを
許してもらう権利

L お店で好きな
商品を選べる権利

M 愛し、愛される
権利

N 私だけの部屋を
もつ権利



文化学園長野中学生徒会「国際キャンペーン」



みんなのSDGs宣言に参加して長野をそして世界を変えていこう



地球規模(パラグアイ)で考え
足元(文中の生徒会)から行動するには?



本日の課題：

南米パラグアイの課題を解決するために
日本に暮らす文中の生徒会として何ができる？

文化学園長野中学生徒会「国際キャンペーン」

本日の課題：

南米パラグアイの課題を解決するために日本に暮らす文中方言会として何ができる？

エキスパート活動

エキスパート資料を読み、班員と協力してワークシートを完成させ、委員会の仲間に説明できるようにしよう。

時間・・・10分

文化学園長野中学生徒会「国際キャンペーン」

本日の課題：

南米パラグアイの課題を解決するために日本に暮らす文中生徒会として何ができる？

ジグソー活動（各委員会で）

エキスパート資料を説明をし、
A3ワークシートに付箋を利用して、
できるだけたくさんの活動や行動
を書いて貼っていこう。

文化学園長野中学生徒会「国際キャンペーン」

本日の課題：

南米パラグアイの課題を解決するために日本に暮らす文中の生徒会として何ができる？

クロストーク

(各委員長より発表)

文化学園長野中学生徒会「国際キャンペーン」

本日の課題：

南米パラグアイの課題を解決するために日本に暮らす文中生徒会として何ができる？

最後にもう一度、各自で、本日の課題について書いてみよう

文化学園長野中学生徒会「国際キャンペーン」

国際理解教育校内授業研修アンケート

所属学年 中学・高校 _____ 学年

12月5日に行わせていただきました国際理解教育校内授業研究で、「見とりの観点シート」(当日の生徒の発言等)を提出いただき、ご協力に感謝申し上げます。ありがとうございました。

この度の研究の目的の一つに「ホールスクール・アプローチ(学校全体でESDに取り組む)」がございます。ホールスクール・アプローチとして本年度は、知識構成型ジグソー法を用いた授業研究が計3回学校全体で行われましたが、文化学園長野の国際理解教育を学校全体として、どのような方向を目指し、何を蓄積していくのか、またそれらをどう共有していくのかを考察し、今後の持続可能な教育活動に活かしたいと存じます。

大変お手数ではございますが、下記アンケートにご協力よろしくお願ひいたします。

1. 研修の評価	評価
①研修の理解度	A とても満足 B 満足 C 普通 D やや不満 E 不満
②教材の内容	A とても満足 B 満足 C 普通 D やや不満 E 不満
③ジグソー法	A とても満足 B 満足 C 普通 D やや不満 E 不満
④研修の内容	A とても満足 B 満足 C 普通 D やや不満 E 不満
2. 本研修でよかったと思われる点、改善点をご記入ください。	
①よかった点	
②改善点	
3. 研修効果の期待感	A とても期待 B 期待通り C 普通 D あまり期待できない E 期待できない
①自身の能力(知識・スキル)向上	A とても期待 B 期待通り C 普通 D あまり期待できない E 期待できない
②自身のやる気向上	A とても期待 B 期待通り C 普通 D あまり期待できない E 期待できない
③職場での活用	A とても期待 B 期待通り C 普通 D あまり期待できない E 期待できない
③で「あまり期待できない」「期待できない」と答えた方はその理由を簡単にご記入ください。	
④研修結果からの本校の未来	
④で「あまり期待できない」「期待できない」と答えた方はその理由を簡単にご記入ください。	
4. 校内国際理解研修で取り上げてほしいテーマをご記入ください。	

ご協力ありがとうございました。



令和元年度 中学生徒会「国際キャンペーン」 計画

I 目標：

文化学園長野中学生徒会として「持続可能な世界を築くにはどのようなことを行えばよいのか」を考え、実践し、その結果をNAGANO SDGs PROJECTを利用して全県に発信する。



中高一貫の生徒会も4年目を迎え、国際理解の学習を、「委員会」という異学年の生徒が集う集団で探究する学習も4回目となる。

1年目は、各委員会が考えるテーマにそって調べ、模造紙にまとめ、掲示した。

2年目は、テーマを「SDGs」の各ゴールに着目し、執行部中心にリーダーズ研修後、サブテーマを決めて調べ、模造紙にまとめ、全校でプレゼンを行った。

3年目を迎えた振り返りの中で、1、2年生から「先輩たちから教えていただくSDGsがよくわからなかった。」という声が上がった。

また、3年生からは「伝え方として、ICTを使ってプレゼンをしたい」という願いが上がった。



時間	学習活動	学習目標
8/2 English Camp 2日目 [1.2年]	・竹内岳さん(JICA長野)より、開発途上国の実情や日本との関係、国際協力の必要性等を交え、信州と世界の繋がりをSDGsの視点を通しての講話を聞く。	・SDGsを知ることができる。
10月 [全校生徒会]	・日本人より日本人らしく生きる日系人の生活から、日本の良さを探り、入管法が改正されこれから多様化する日本が、何をすべきかを考える。	・持続可能な社会のために、入管法が改正された日本の本質的な課題を探ることができます。
11月 [全校生徒会]	・カテウラ音楽団を知り、大量消費と格差社会について考えさせ、社会開発と人間開発両面が活き得る貢献について考える。	・持続可能な社会のために、世界の現状を知ることができます。
12月 [2.3年]	・もう一度SDGsの原点に還り、「誰一人取り残されない」、みんなが幸せになれる社会を創っていくために「しあわせ観」を多様にイメージし合う。	・自分、世界の幸福観を知り、「誰も取り残されない世界」について議論できる。
1月 [3年]	・プレゼンの学習 ・プレゼンの意義(伝える→共感させる→感動させる→決断させる→行動させる)を知る。 ・効果的なプレゼンの6要素(簡単に→意外性→具体性→信頼性→感情的に→ストーリー性)を知る。	・持続可能な開発目標達成に向けてリーダーとして活動できる。またその活動について、ICTを使ったプレゼンによって説明する事ができる。
2月 [全校生徒会]	・各委員会「SDGs研究発表」を保護者、地域の方々の前でプレゼンテーションを行う。 ・生徒会執行部役員は、高校生徒会執行部とともに「信州ESDコンソーシアム」成果発表会へと繋げる。	・保護者、地域の方々を学校にお招きし、各委員会でアクションプランの研究発表会でプレゼンテーションを行うことができる。



JICA東京主催
令和元年度教師海外研修
帰国報告会（パラグアイ派遣）

@文化学園長野中学全校生徒会
2019年10月17日（木）16:00～
国際理解教育委員長 長田 里恵

文化学園長野中学生徒会「国際キャンペーン」



JICA研修の目的は？

◎ 中進国になったばかりのパラグアイの現状を知り、私に何ができるかを考え、SDGsを達成するための行動を起こす！

①えっ!? パラグアイに日本人地区があるの?

②パラグアイの教育事情やその課題を、教育関係JICAボランティアの方々に聞いてこよう!



本日の全校委員会 パラグアイ知ってる？

①えっ!? パラグアイに日本人地区があるの?

文化学園長野中学生徒会「国際キャンペーン」



日本の反対側にあるパラグアイって？



Paraguay

Surface: 406.752 km²

Population: 6.672.631

Capital: Asuncion



Climate: Tropical to Subtropical, with average annual temperatures ranging from 20° to 25°C

Annual Rainfall: from 800 to 1800 mm

文化学園長野中学生徒会「国際キャンペーン」



高い食料自給率と農業の発展

○自給自足と農業の機械化



・文化学園長野中学生徒会「国際キャンペーン」



△農家の方が遠路馬車に乗って週一回の市場を開く



・文化学園長野中学生徒会「国際キャンペーン」



高い食料自給率と農業の発展 △食生活と生活習慣病



・文化学園長野中学生徒会「国際キャンペーン」



社会的インフラの整備

△道路整備の都市・地方格差



・ 文化学園長野中学生徒会「国際キャンペーン」

①えっ!? パラグアイに日本人地区があるの?

答え: あります

日系移住者から何を
学ぶ?

ラ・パス移住地訪問
ラ・パス日本人会、移住資料館
ラ・パス農協
日系スーパー・マーケット
日系農家
ラ・パス日本語学校

文化学園長野中学生徒会「国際キャンペーン」

1. 日本との繋がり

文化学園長野中学生徒会「国際キャンペーン」

1. 日本との繋がり

①日本語教育・日本文化継承の難しさ。

②パラグアイを知らなすぎる日本人。

③美化された日本と、現実。

文化学園長野中学生徒会「国際キャンペーン」

自分は何者か



自分は何者か
自分は何者？パラグア
自分は何者か日本人なの
い人のなか日本人なの
が。
別々は、日本語学に通
ている時は日系人で
寝ている時はパラグア
イ人だと思ひます。

文化学園長野中学生徒会「国際キャンペーン」

①日本語教育・日本文化継承の難しさ。

- ・思春期にアイデンティティに悩む。
- ・スペイン語学校では「もっとスペイン語を勉強しなさい」と言われる。
→習得のメリット・モチベーションが低い。

文化学園長野中学生徒会「国際キャンペーン」

1. 日本との繋がり

①日本語教育・日本文化継承の難しさ。

②パラグアイを知らなすぎる日本人。

③美化された日本と、現実。

文化学園長野中学生徒会「国際キャンペーン」

②パラグアイを知らなすぎる日本人。

- ・日本ではパラグアイの情報が手に入らない。

→親日感情を持つ中進国パラグアイと双方向的な関係
を築くことが大切。

文化学園長野中学生徒会「国際キャンペーン」

1. 日本との繋がり

- ①日本語教育・日本文化継承の難しさ。
- ②パラグアイを知らなすぎる日本人。
- ③美化された日本。

文化学園長野中学生徒会「国際キャンペーン」

③美化された日本と、現実。

遠くにいるからこそ、日本が美化されている。(勤勉、約束を守る、豊かで便利、おしゃれ)



日本に出稼ぎにきた人がすぐ帰国してしまう。(狭い、天井が低い、せかせかしている、儲からない)

日本の住み続けられる街づくりのためには？

文化学園長野中学生徒会「国際キャンペーン」

2. 多文化共生

文化学園長野中学生徒会「国際キャンペーン」

2. 多文化共生

- ①受け入れ国の「寛容性(心の広さ)」。
- ②文化の持続可能性への疑問。
- ③多文化共生から多文化融合へ。

文化学園長野中学生徒会「国際キャンペーン」

①受け入れ国の「寛容性」。

パラグアイではマイナリティである日系人も、生かされている。



文化学園長野中学生徒会「国際キャンペーン」

2. 多文化共生

- ①受け入れ国の「寛容性」。
- ②文化の持続可能性への疑問。
- ③多文化共生から多文化融合へ。

文化学園長野中学生徒会「国際キャンペーン」

②文化の持続可能性への疑問。

日本とパラグアイ、両方の文化を残す難しさ。

→(1)あなたなら、どうする？

文化学園長野中学生徒会「国際キャンペーン」

葛木みどり元SV寄贈



文化学園長野中学生徒会「国際キャンペーン」



文化学園長野中学生徒会「国際キャンペーン」

2. 多文化共生

- ①受け入れ国の「寛容性」。
- ②文化の持続可能性への疑問。
- ③多文化共生から多文化**融合**へ。

文化学園長野中学生徒会「国際キャンペーン」

③多文化共生から多文化融合へ。

パラグアイ流幕の内弁当・鮭の皮海苔巻き

→パラグアイ文化・日本文化との融合。



文化学園長野中学生徒会「国際キャンペーン」

3. 農業への貢献

- ①環境課題に対応する新しい農業。
- ②日系人のパラグアイへの貢献。
- ③人材育成の難しさ・跡継ぎ不足。

文化学園長野中学生徒会「国際キャンペーン」

①環境課題に対応する新しい農業。

- ・原生林を切り開いたことによる環境破壊。

→(2)あなたなら、どうする？

文化学園長野中学生徒会「国際キャンペーン」

3. 農業への貢献

- ①環境課題に対応する新しい農業。
- ②日系人のパラグアイへの貢献。
- ③人材育成の難しさ・跡継ぎ不足。

文化学園長野中学生徒会「国際キャンペーン」

②日系人のパラグアイへの貢献。

- ・大豆の生産を主として、農業経済への貢献は大きい。財政へ貢献。
- ・パラグアイの食生活に野菜を持ち込んだ。
- ・パラグアイ人を使って経営。

文化学園長野中学生徒会「国際キャンペーン」



文化学園長野中学生徒会「国際キャンペーン」

3. 農業への貢献

- ①環境課題に対応する新しい農業。
- ②日系人のパラグアイへの貢献。
- ③人材育成の難しさ・跡継ぎ不足。

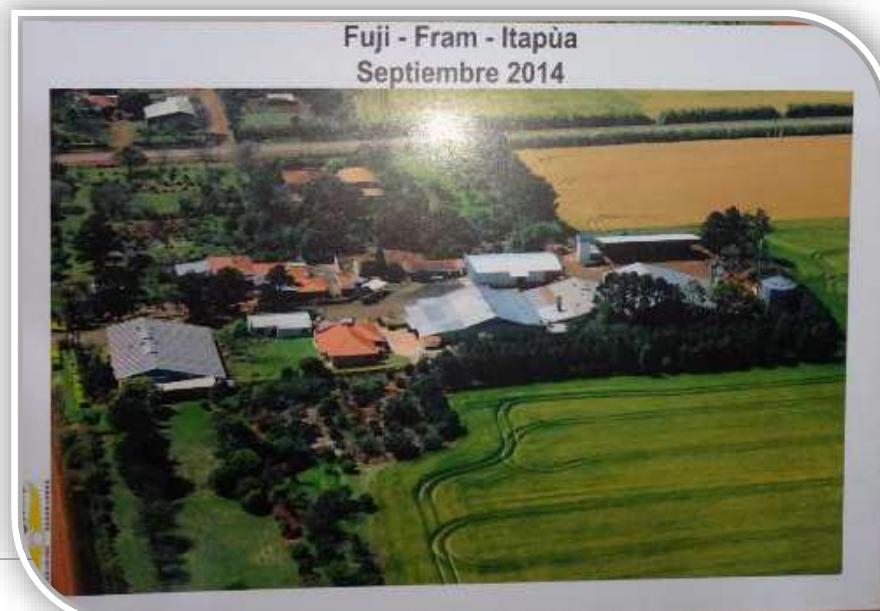
文化学園長野中学生徒会「国際キャンペーン」

③人材育成の難しさ・跡継ぎ不足。

・経済発展とともに職業が多様化。後継者の人材確保が課題。

→あなたなら、どうする？

文化学園長野中学生徒会「国際キャンペーン」



文化学園長野中学生徒会「国際キャンペーン」



What do you think about it?
What should you do?



文化学園長野中学生徒会「国際キャンペーン」

巨大台風と治水 「まさか」はもう通用しない

信毎web 2019年11月21日
木曜日

「ぼくらの大事なふるさとを守ってくれてる（略）　ぼくらの歩む未来が輝き続けるように」

長野市の長沼小6年の児童たちが2015年3月に上演した創作劇「桜づつみ」の主題歌だ。

歌われているのは長沼地区にある千曲川の堤防。1984年に完成した既存の堤防を、地元の要望を受け再整備した。

4・3キロにわたって国が盛り土をして堤防機能の維持を図り、市が遊歩道をつくった。地元が寄付した約400本の桜も植えた。

15年かけた事業が完成したのは16年。水害に苦しめられてきた地区には待望の堤防だった。竣工（しゅんこう）式では地元役員から「これで安心できる」などの声が出たという。

児童たちは、水害の歴史を地域の人たちから学び、語り継ごうと劇にした。竣工式でも歌い、歌碑も遊歩道に設置された。

今回の台風で決壊した千曲川本流の堤防はこの「桜づつみ」だ。

<83年を超えた水位>

本流の堤防が決壊したのは1983年の飯山市以来になる。この時に決壊したのは整備前の暫定的な堤防だ。完成堤防の決壊は、千曲川では今回が初めてになる。





<83年を超えた水位>

本流の堤防が決壊したのは1983年の飯山市以来になる。この時に決壊したのは整備前の暫定的な堤防だ。完成堤防の決壊は、千曲川では今回が初めてになる

<インタビュー結果> パラグアイ共和国イタプア県ラパス移住地 ラパス日本語学校 後藤校長

Q. 大変なことは?

移住してからずっと農業関係の地域の中で暮らしてきているので、ここで農業者として働いていると3代目が経営者になる時代になっている。このまま日系社会を保つための努力を3世代、親・祖父母の苦労を受け継ぎながら、自分たちが3世としてやっていけるのか。日系人としての誇りを忘れないように、日系社会という基盤をきっちり守り続けていけるのか。また、ラパス日本語学校の子供たちは現地で生きていくための教育が優先されるので、日本語を学ぶこの学校は、子供たちにとっては親に「行きなさい」と言われるままに来ている場所。どうやって教科書・カリキュラムを使って指導し、定着させていくのかというのが大変なところ。今の子供たちは3世。5~6年前の子供と比べても日本語の力は落ちてきている。日本語学校の勉強は難しいというのを少しずつ和らげながら、子どもたちも楽しみながら、学習を続けていけるのかというのが難しいところです。

Q. 学校として大変なことは?

ラパス日本語学校の子供たちは、現地で生きていくための教育が優先されるので、日本語を学ぶこの学校は、子供たちにとって親に「行きなさい」と言われて来ている場所。どうやって教科書・カリキュラムを使って指導し、定着させていくのかというのが大変なところ。今の子供たちは3世。5~6年前の子供と比べても日本語の力は落ちてきている。日本語学校の勉強は難しいという気持ちを少しずつ和らげながら、子どもたちも楽しみながら、学習を続けていけるのかというのが難しいところ。



Q. 日本の先生方に向け一言

こういった日本と真反対のところに日系の移住地があり、そこで3世・4世の子がいる日系社会がある。そこで「日本人」の心を忘れないで生活している日本人がいることを忘れず、日本の子ども達に伝えてほしい。日本は本当に素晴らしい国だと思う。知識・能力を持った国。だから私たちも、それを誇りに思いながらここパラグアイに暮らすので、皆さんも素晴らしい国に住んでいるということを自覚してほしいと思っています。日本は、私たちの心のよりどころなのです。

Q. 日本の子ども達に向けて一言

高校生など子供たちは、長い人生のなかで1年くらい休学して留学したりして、視野を広げることも重要なのかと思います。ニュースを見ていると、日本では不登校などのいろいろな問題があると聞いている。そういうときに少し立ち止まってみて、寄り道してみるというのもいいんじゃないかしら。世界は広い。行こうと思えばいつでもどこでもいけるので、広い世界に目を向けてみてください。

<インタビュー結果>

パラグアイ共和国農村地

ミグドニオ サムリオさん

Q. ここ（農村）での教育は？

自分は60歳。小さい頃学校に行けなかったから、外（村の）人が言ってくれたことを聞いて、少しづつ知識を貯めて。だから、子供たちには学んで欲しい。そのことに幸せを感じる。

でも、子供たちに勉強させてあげたい気持ちはたくさんあるけど、経済力がないからな。勉強したければ子供たちの稼ぎで、自分の力で、学んでくれないといけない。悲しいけれど、しょうがないんだ。

子ども5人のうち3人が、外で仕事と勉強をしている。どの子かは戻ってきて家業（木工、左官工事、塗装工事）を継いだり、私たちを助けたりして欲しいな。

末娘は12歳で中学一年生。悪路を原付バイクで通学している。優秀な子だから日本大使館の奨学金を取らせて学んで欲しいと思っている。いつかは日本に行ってみたい。

Q. 妻の仕事についてどう思う？

妻が村で、女性コミッティーを作って活動を始めたといい始めた最初から彼女を応援している。（JICA）来てくれてありがとう。外から来て色々な事を教えてくれたおかげで、色々なことが少しづつ良くなつたんだ。ほんとうにありがとう。みんなと一緒に手を取り合って活動することや、研修などで色々なことを教えて貰うことで、自分たちの生活が良くなるきっかけになってるので嬉しい。もっと外国人を受け入れる体制ができれば、もっともっとパラグアイは良くなる。パラグアイには活動できる場所はたくさんあるから。学校に行けなかった分、皆さんが来て教えてくれるから知識が少しづつ着いてきている。そこから少しづつ学ぼうと思っているんだ。



ミグドニオさんの妻

Q. 日本の人たちに一言

女性が働けることは良いこと。今妻がコミッティーに入っているから、うちだけ抜けることは絶対にできない。もし収入がいい仕事についたとしても、妻自身の気持ちと仕事のチャンスがあればコミッティー活動やってほしいと思う。

困っていることいっぱいある。でももう年だから、今の生活から大きく変わることは無いと思う。でも子供たちには、汗水垂らさなくても生活出来るようになってほしいな。楽な仕事についてほしい。経済的に楽になって欲しいと思う。そしてもう一言。

僕の目に映る皆さんには、私たちを助けてくれる存在。宇宙人のように舞い降りてきて、なにか光を感じた。皆さんも団結して、私たちパラグアイ人も団結して、それぞれのグループが団結すれば力が増すでしょ。絶対光はさします。みんなで前進しましょう。

<インタビュー結果> パラグアイ共和国アスンシオン カテウラ音楽団アシstant マルセロ・カセスさん

Q.やりがいと夢は?

このカテウラ地域は現地の方々ですら避けて通るような場所で、安全面も良くない。ほとんどがスカベンジャー（ゴミ拾い）でお金をを得ている。多くの子どもたちは学業よりも、ゴミ拾いにより家計を助けることを優先し、40%近い子どもたちが学校を卒業出来ていないという現状だ。

そんな中、子ども達がドラッグやアルコールに走ることがないよう、代わりに何か打ち込めるものを作れないか、ただその一心で作られた音楽団。カテウラ音楽団。

子供が一步一步前進していると感じたときやりがいを感じる。音楽というのは更生への一つのツールだと考える。変化・変容を促すツールなので、生徒に技術は教えるが、それ以上に力を入れていることは、価値観やしつけ等を与えること。

Q.大変なことは?

毎日何らかの形で大変なことが起こるが、その日その都度、解決できるようにしている。問題の一つとして、子どもたちの家庭環境が悪いこと。そういう場合、細心の注意を払って接するようにしている。カテウラの子どもは労働力ゆえに、練習中も親に連れ帰される。それでも辛抱強く続けてきている。

子ども達は、主に13~15歳だが、同じ年代より責任感はずっと強く、約束を守るようになった。大変ではあるが、子どもは、任せて信頼すると、それに応えようと努力してくれる。

Q.夢は?

カテウラ音楽団がパラグアイ、世界一の音楽団になること。

Q.日本の子どもたちへ

夢があったらそれを叶えるために、全ての条件を備えなければならないわけではない。少しずつ、一歩ずつ、まずは踏み出して夢を叶えてほしいと思う。

これから成長するに従って、いろんな壁にぶつかると思うけど、乗り越えられない壁はない。みんなが抱える悩みより、数十倍頑張っている人もいる。がんばってください。夢をかなえるため、情熱・努力・忍耐があれば必ず叶えられます。

Q.日本の先生たちへ

先生というのは、生徒たちにとってモデルとなる人物。先生は子供たちのちょっとした変化を読み取ってほしい。学校にいる時間だけでは、子どもたちの悩みに対応するのは難しいかもしれない。勤務外でも子供たちの悩みに向き合ってほしい。

もしも先生たちが悩みを抱えていたり、何か新しいことを始めたりしたいと思っているのでしたら、我々楽団も何もないところから始め、今に至っていますので、先生たちも情熱と努力、生徒たちのことを一生懸命考えていたら、必ず成功します。頑張って。

ワークシートA

SDGs達成のために生徒会として何ができるだろう



南米パラグアイには、どんな課題がある？



_____ 委員会 年 組 名前 _____

1. あなたの考えを書きましょう。

2. エキスパート活動

①各自で資料を読み、SDGsと結び付けよう。（パワポ解説）

②班でワークシートBに貼って、自分の考え方や班員の考え方を共有しよう。

③班で一番大事な課題だと思う事がらを決め、SDGsの番号とともに記入しよう。（複数可）

④班長は、ワークシートBをホワイトボードに貼ろう。

3. ジグソー活動

①エキスパート活動でまとめたことを、伝えよう。

4. 最後にもう一度、下記の質問に対するあなたの意見を書こう。

南米パラグアイには、どんな課題がある？

ワークシートB

エキスパート 日系社会



全員の名前：_____

ワークシートB

エキスパート 農村地域



全員の名前：_____

ワークシートB

エキスパート カテウラ音楽団



全員の名前：_____